

大潟区 第45号 地域協議会だより

発行日 令和2年7月25日
発行 大潟区地域協議会
会長 君波 豊
編集 会報編集委員会
事務局 大潟区総合事務所
総務 地域振興グループ
電話 534-2111

第5期大潟区地域協議会がスタート



耐えて、
持続可能な新たな
まちづくりを練る

会長
君波 豊（犀潟）

オリンピックウィヤーの令和2年は、暖冬で雪のない穏やかな年明けでした。何処の年賀式でも、東京オリンピック・パラリンピックが式辞の中に織込まれ、世界トップアスリートによるハイレベルな競技と首都東

での大会成功に期待を寄せたのではないでしょうか。

大潟区にあって、多くの市民のみなさんは、前年11月末に竣工し、1月26日に開場した体操のまちを象徴する、上越市立上越体操場・愛称「ジムリーナ」でのドイツ体操チームの合宿で、世界のオリンピックアンを間近に見る日を指折り数え始めたものと思います。

「緊急事態宣言」で制限された生活

しかし、そんな夢が膨らむ期待も、中国武漢市で発生されたとされる人類未体験の新型コロナウイルス感染拡大によって、無残に打ち砕かれてしまいました。日本での感染も瞬く間に拡大し、マスクの着用、不要不急の外出制限、3密対策、県境を超えての移動自粛、そして「緊急事態宣言」によって家に籠るとい

れました。

社会活動も経済活動も厳しく制限される事態となり、正に「日本沈没」を思わせる事態に陥ってしまいました。

そんな新型コロナウイルス感染拡大の最中、4月29日付で14名のメンバーによる大潟区地域協議会が発足しました。2波、3波の感染拡大も懸念され、マスクの着用必須、会議の開催もままならない中でのスタートとなりました。

任期4年の前半2年は、逆風に耐え、これまでのような「グローバル化だ」「人口増だ」「人を多く集めれば良い」「経済優先・儲かれば良い」といったまちづくりの有り様を顧みたいと思います。

市民の皆さんと共に新たなまちづくり、持続可能なまちづくりの構想を練って、市に提案する第5期地域協議会でありたいと思います。

令和2年度 地域活動支援事業 (大湊区) 採択事業一覧

	採択事業名	決定補助額 (単位：千円)	提案者
1	情報発信により地域活動を支援する事業	857	まちづくり大湊
2	小山作之助の功績を称える事業	220	まちづくり大湊
3	みんなでまちをきれいにする事業	781	まちづくり大湊
4	大湊地区自主防災支援事業	340	上越市防災士会 大湊支部
5	動物飼育を通じた児童と地域を憩いの場としてつなぐ交流事業	1,637	大湊町小学校 後援会
6	大湊の子ども達に伝えたい郷土の食材と料理資料集作成事業	775	大湊の子どもを 育てる会
7	犀湊地内湊守新田「新堀川悪水吐機能安泰・五穀豊穡祈願碑」の修復事業	1,356	だいはま会
8	3世代交流事業	506	雁子浜町内会
9	生徒と地域をつなぐ活動の周知事業	628	大湊町中学校 PTA



マスクを着用しての大湊区地域協議
(5月14日 市民活動室)

**大湊区への配分金額 710万円
補助金額が満額で残金なし**

9件の提案事業を採択

6月4日に開催された第2回地域協議会は、本年度の上越市地域活動支援事業(大湊区)に応募があった提案事業9件のプレゼンテーションを行いました。

なお、審査及び採択は、11日に開催した第3回地域協議会において行いました。上越市からの配分額よりも補助希望額が上回っているため、大湊町中学校PTAからの提案事業が「減額でも実施を希望する」とのを確認して協議をしました。

その結果、全9件補助合計額を大湊区配分の満額710万円として決定しました。

また、提案団体に対して要望事項を付帯事項として取りまとめ、通知しました。

地域協議会の開催状況(令和2年4月~6月)

	開催日	内容
第1回	5月14日(木)	①任命書の交付(4月29日付、大湊区地域協議会委員14名) ②会長及び副会長の選任について ③大湊区地域協議会で定める事項について ④令和2年度地域活動支援事業について
第2回	6月4日(木)	○令和2年度地域活動支援事業(大湊区)提案事業について(プレゼンテーション) 提案事業10件(1件取り下げ)
第3回	6月11日(木)	①令和2年度地域活動支援事業(大湊区)の採択について ②地域協議会だよりの発行について
その他	4月1日~5月7日	○令和2年度地域活動支援事業(大湊区)募集
	5月21日(木)	○勉強会 ①地域活動支援事業提案事業の概要及び審査について ②令和2年度地域活動支援事業(大湊区)の提案団体への質問事項の取りまとめ

私たち委員の想い

今期から委員の定数が、2名減で14名になりました。任期開始にあたり想いを寄稿してもらいました。



熱心に協議する地域協議会委員（7月16日）

様々な声を活かしたい

五十嵐郁代（犀潟）

3期ぶりの2度目の委員を務めることになりました。今年の市議会議員選挙に女性7名が当選しました。私は、より多くの方々に地域協議会の必要性を感じてもらい、次の女性委員を増やしたいと思えます。「まちづくり大潟」との更なる連携で確かなまちづくりにつなげていきたいと考えています。

地域課題の協議の仲間入り

五十嵐公子（潟町）

地域協議会は、地域の様々な課題等について、市民が主体となって協議する場であると理解しております。

これまでそのような経験がほとんどない私ですが、25年間の運動指導と民生・児童委員等の経験で培った知識や人との繋がりを活かして、少しでもお役に立てるよう努めますので、よろしくお願い致します。

地域に関心をもち

貢献したい

金澤信夫（潟田）

長年、大潟区に住んでおりますが、地域のことを何も知らないのが実状です。これからは、地域に関心をもち、多くの問題を抱えている地域課題の解決と地域の発展や活性化に微力ながら貢献できればと考えながら、地域協議会委員を4年間努めたいと考えています。

若者と女性加わる

佐藤忠治（四ツ屋浜）

多様な住民の意見をすくい上げ、熟議の中で公共的意思決定を行う場である地域協議会でありたい。

今年度は、若者や女性たちと一緒に議論できるので、毎回の協議会が今まではない楽しみの場でもあります。会長を補佐する副会長なので、会議の運営や総合事務所との連携がスムーズなるように努めていますので、住民の皆さんから会議の傍聴にきていただきたいと考えています。

初めての事ばかり

新保輝松（下小船津浜）

今まで市政や地域のことなどには関心も低く、特別な思い入れもありませんでした。

そんなおり、地域協議会委員の事を紹介され、興味を感じ承諾しました。

5月以降、数回の会議が開催され出席しましたが、初めての事ばかりで戸惑っています。皆さんに教えていただき、微力ながらも活動できればと思っています。

地域協議会に参加して

関清（潟町）

人生の最終章に入った感のある年齢を迎え、生まれ育った故郷へ何らかの貢献をすることも良いことじゃないかと参加させていただきました。

私自身は、農業農村関連の出版社で仕事をしてきた関係で地域再生のテーマは身近で強い関心事であり続けています。

この機会に改めて勉強し直したい。そう思っています。どうぞよろしくお願い致します。

3項目の目標にむけて

土屋郁夫（蜘蛛ヶ池）

私は大潟に移り住んで29年が経ちました。若い頃には、町消防団員の活動や町民有志のパソコンサークル活動などを行いました。

現在、上越教育大学院で教育研究を行い、イノベーション普及を推進したいと考えています。

地域協議会委員として、次の3点を意識して活動して行く所存です。

- ① 明るく楽しい地域づくり
 - ② 教育・生涯学習の充実
 - ③ イノベーションの普及
- 4年間、よろしく申し上げます。

身の引き締まる思い

中野幹根（九戸浜）

九戸浜に住んで30日年となりました。この地で家庭を持ち、子ども達が伸び伸びと育ち、やがて老境にさしかかった私にとって、地域に役立つことはなにか、何か恩返しができないものかと考えておりました。そんな中で、立候補となりました。数回の討議の中で、責任の重大さに改めて身の引き締まる思いです。よろしくお願い致します。

初めての支援事業の審査

濁川清夏（湯町）

令和2年4月29日から4年間の活動がはじまりました。まず、令和2年度の地域活動支援事業で、各提案者のプレゼンテーションに大潟区の活力を感じました。これからも様々な活動をしっかり見つめて協力していきたいと思えます。

活力あるまちづくりを

俵木一松（長崎）

今年度より地域協議会委員として活動することになり、緊張と責任を感じているところです。大潟区がより良いまちづくりができるように活動していきたいと思えます。また、地域の困りごとや活動を後押ししたいと思えます。

大潟区の活性化に

俵木晴之（湯町）

農業後継者の高齢化による後継者不足が全国的な問題ですが、農業後継者の育成を区民の皆様からも提言していただき、活力あるまちづくりに繋がれたらと思えます。4年間どうぞよろしくお願い致します。

5月14日、任命書交付式。緊張と不安のなか、4年間が始まりました。

会の運営等については、HP・便りなどで多少は把握していた。地域の課題は山積しており、少子高齢化により、各方面のパイプ役としての取組み方が重要であると考えます。

住民の声を聴き、会で協議・検討を重ね、大潟の活性化に繋がなければならぬと思う。自己啓発も含め、全会議出席をめざし、頑張りたいと思つ。

地元のために何かを

細井雅明（高橋新田）

海と鵜の浜温泉とみどりの豊かなまちー私が生まれ育った大潟を一言でいうとこんな印象でしょう。65年間暮らししてきた地元のために何かできないかと思つていますが、4年間で何かが見つければいいと思つています。よろしくお願い致します。

諸団体との連携を

山岸敏幸（九戸浜）

この度、地域協議会委員として初めて地域活動支援事業の審査をする側となり、その責任の重さを痛感しました。

今年度の支援事業の審査は、余りにも備品等の購入が主体の提案事業が多く、本来の地域活動支援事業ではない気がしました。

大潟の各地域で頑張っておられる諸団体の皆様と、地域協議会が連

編集後記

新型コロナウイルス感染症防止、三密を避けることなど、会議をはじめ様々な活動が制限され、なれない習慣に戸惑う毎日▼テレワーク等で自宅にいる時間が多くなり、プチ贅沢な巣ごもり商品の売れ行きが多いと聞く▼手洗

携できないか4年間の任期中に模索していきたいと思つています。「皆が住んで良かった！次は何をしよう！と地域の皆さんと語れる地域協議会であつたらいいな」と、思えるように頑張りたいと思つています。

新たな地域協議会委員に

望むこと

寄稿

前地域協議会委員

後藤 紀一

合併前の大潟町は、上越地区で最も行政効率が高かった町でした。いわゆるコンパクトシティでした。合併して15年余り経過しましたが良かったところは継承すべきだと思つています。

新しい委員に望むことは、役所の報告事項の内容を「鵜呑みにしない事」が、私の4期地域協議会委員を振り返つての教訓です。「電源立地地域対策交付金の使途」や「新上越斎場の建設計画の説明」時の教訓です。使途の期限が曖昧であつたり、頸北斎場の廃止が含まれていた事が印象に残つています。

消毒、マスクの着用をはじめ、新しい生活様式を取り入れ、感染防止に地域一丸となって取組む事をお願いしたい。（山岸敏幸）

（編集委員） 山岸敏幸・細井雅明 俵木晴之・君波豊